

# 平成 27 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	10	05	07	0401	花巻新渡戸記念館企画展示事業
総合計画	分野	人づくり			
	政策	3-5	芸術文化の振興		
	施策	2	先人の顕彰		
目的	新渡戸家及び新渡戸家ゆかりの先人とその業績を紹介する。				
対象	一般市民及び県内外の観光客				
意図	江戸時代以降、花巻の発展に貢献し、国際人・新渡戸稲造を生んだ新渡戸家を顕彰・紹介し、市民に花巻の歴史の一端に触れていただくとともに、併せて観光客にも本市をPRする機会とする。				
事業概要	…上記目的を実現するための事業手法を記載すること				
○特別展の開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>常設展とは別に、年間を通して特別展を3回開催。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①「稲造と昌介～札幌農学校時代～」(4/20～8/31)</li> <li>②「花巻城下の暮らし」(9/7～11/23)</li> <li>③「収蔵資料展」(2/13～4/10)</li> </ul> </li> <li>花巻市4館連携事業の共同企画展として「新渡戸 傳 展」を開催。(12/5～1/31)</li> </ul>				
○教育普及事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>①市内の学校以外にも近隣の市外の学校にもPRし来館を促すとともに、出前講座を開催。</li> <li>②市内外の公民館に働きかけ、高齢者学級や婦人学級に活用していただくようにした。</li> <li>③一般の市民を対象にした「新渡戸教室」を開催。</li> <li>④参加者を公募し、新渡戸家ゆかりの地を訪ねる移動研修を開催。</li> </ul>				
市民参画の有無	[ 対象外 ]				
市民協働の形態	共催		実行委員会・協議会	事業協力・協定	
	後援・協賛		補助・助成	委託	
活動指標 (上記「事業概要」に対応)	単位	区分	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(計画)
① 行事開催数	回	計画	10	10	10
		実績	10	10	
②		計画			
		実績			
③		計画			
		実績			
成果指標 (上記「意図」に対応)	単位	区分	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(計画)
① 入館者数	人	目標	26,100	25,000	25,000
		実績	13,113	14,302	
② 生涯学習に利用した小中学校数／市内小中学校数	%	目標	25.0	25.0	25.0
		実績	26.7	20.0	
③		目標			
		実績			
成果指標の達成度	目標値より高い		概ね目標値どおり	○	目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析 (新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載)	
○入館者数の推移 H25年度 16,415人(46人/日) H26年度 13,113人(36人/日) H27年度 14,302人(40人/日) ※ここ数年の現状をみると、1日あたりの利用者は40～50人前後であり、目標値と大きな乖離がある。そのため1日あたりの目標人数を60人を目指し目標として掲げた。 ○生涯学習に利用した小中学校数は例年6校前後。前年度と同様にH27年度においても8校を目標としたが6校の実績であった。	
目的妥当性	<b>公共関与の妥当性</b> <input type="radio"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input type="checkbox"/> 妥当でない 学校の教科書では中々習うことの少ない新渡戸氏やそのゆかりの先人を知ることは、郷土の歴史に触れ地元愛を醸成するとともに、県内外の観光客に対しても花巻市をアピールする効果もあり、市が関与することは妥当である。
有効性	<b>成果の向上余地</b> <input type="radio"/> 向上余地がある <input type="checkbox"/> 向上余地がない 県外からの来館者からは、高い評価をいただいている一方、市民の間においてまだ十分に浸透していない状況が見受けられることから、入館者増に向けた情報発信の工夫やイベントの充実等において向上する余地がある。
効率性	<b>事業費・人件費の削減余地</b> <input type="checkbox"/> 事業費の削減余地がある <input type="checkbox"/> 人件費の削減余地がある <input type="radio"/> どちらも削減余地がない 休館日は年末年始のみという中、正職員1名、非常勤職員2名の体制で運営しており、これ以上の削減は困難である。
公平性	<b>受益と負担の適正化余地</b> <input type="checkbox"/> 受益機会の見直し余地がある <input type="checkbox"/> 費用負担の見直し余地がある <input type="radio"/> 適正である 市内外を問わず入館者に対して、原則同一料金をいただいております。
総合評価 …上記評価結果の総括	
教科書で知ることがきわめて少ない郷土史について、新渡戸家という切り口を通して江戸時代以降の花巻の先人や歴史を学ぶことができるということはすこぶる有益であると思われる。 また、新渡戸稲造という傑出した人物を生んだ土壌が花巻にあることを県内外にアピールすることは、本市の大きなPRポイントにもなる。 一方、当館で実施しているアンケート調査では、展示内容及び施設環境にはかなり肯定的な意見が多いにも関わらず、知名度の点において劣っているのは否めない。このため今後、市内外に対して様々な媒体や機会を捉えてPRしていくことが必要である。	

平成 27 年度 事業説明資料

【 事後評価 】

担当部署 部名 生涯学習部 課名 新渡戸記念館 担当係長 菊池 喜一 内線 31-2120

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

(単位：千円)

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	10	05	07	0401	花巻新渡戸記念館企画展示事業

単位：千円

		26年度 決算額(A)	27年度 決算額(B)	28年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費		761	1,183		422
財源内訳	国・県				
	地方債				
	その他				
	一般財源	761	1,183		422

事業期間	単年度繰返	期間限定	[平成 年度 ~ 平成 年度]
------	-------	------	-----------------

部重点施策における目標  
芸術文化の振興を図ります。

事業開始の背景・経緯

江戸時代以降、花巻の地域開発に大きな足跡を残し、国際人・新渡戸稲造を生んだ新渡戸一族と同家とゆかりのある先人たちを顕彰・紹介するため、平成3年10月、新渡戸家ゆかりの地に開館した。

事業概要

- 特別展の開催
  - ・常設展とは別に、年間を通して特別展を3回開催。
    - ①「稲造と昌介～札幌農学校時代～」(4/20～8/31)
    - ②「花巻城下の暮らし」(9/7～11/23)
    - ③「収蔵資料展」(2/13～4/10)
  - ・花巻市4館連携事業の共同企画展として「新渡戸 傳 展」を開催。(12/5～1/31)
- 教育普及事業
  - ①市内の学校以外にも近隣の市外の学校にもPRし来館を促すとともに、出前講座を開催。
  - ②市内外の公民館に働きかけ、高齢者学級や婦人学級に活用していただくようにした。
  - ③一般の市民を対象にした「新渡戸教室」を開催。
  - ④参加者を公募し、新渡戸家ゆかりの地を訪ねる移動研修を開催。

事業を展開する上での課題、留意事項 / 意見・要望等

- ・市内はもとより、市外及び県外に対してもっと記念館の認知度を上げることの必要性。
- ・冬期間における入館者数の確保。

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること。  
【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は1文章程度にとどめること。】

●年間事業

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
企画展示	特別展Ⅰ				特別展Ⅱ 「花巻城下の暮らし」			共同企画展		特別展Ⅲ 「収蔵資料」		
教育普及・イベント	会員(記念館サポーター)募集											
	特別公		移動研修		開館記念行 新渡戸教室							

～新渡戸氏と花巻～

- 平成26年度事業 ⇒ ○平成27年度事業
- ①特別展を年3回開催
  - ②イベント関係
    - ・春の特別公演、秋の開館記念行事
  - ③教育普及事業
    - ・高校生対象の新渡戸教室
    - ・出前講座、移動研修を開催
- ⇒ ○平成27年度事業
- ①特別展を年3回開催
  - ②イベント関係
    - ・春の特別公演、秋の開館記念行事
  - ③教育普及事業
    - ・一般を対象の新渡戸教室
    - ・出前講座、移動研修を開催

◆平成27年度の主な事業

- 特別展Ⅰ 開館25周年記念事業「稲造と昌介～札幌農学校時代～」
  - 新渡戸稲造に大きな影響を与えた佐藤昌介。北海道大学時代における2人の交友に焦点を当て、貴重な写真と資料を展示。
- 「新渡戸教室」の開催(教育普及事業・新規)
  - 目的
    - ・稲造を始めとする新渡戸家の業績を広く市民に知らしめるとともに、改めて館の存在を周知させるため、教室を開催。
  - 内容
    - 講演「新渡戸稲造－世界に示した紳士道－」

◎事業費内訳

8節	80千円(イベント出演、講師謝礼)
11節	429千円(チラシ・フレット印刷)
12節	70千円(広告費、資料送付代)
13節	604千円(展示パネル製作委託費)